

第6学年 社会科 授業構想シート

授業者 平井 千恵

本実践の主張点	国力をグラフに表しながら事象について追究することで、多面的・多角的な見方・考え方を働かせて、様々な事象を関連付け、時代を説明する力が育つであろう。
---------	---

1. 単元名 国力の充実をめざす日本と国際社会

2. 6年C組の子ども

本学級の子どもたちは、非連続テキストからの気づきを出すことに興味をもち、一枚の非連続テキストから多くの情報を取り出すことができる。しかし、その情報を関連付けたり、まとめたりすることのスキルについては未熟である。学習の振り返りについては、自分が学習内容について考えたことや疑問に思ったこと、友達の考えで見方が広がったことなどを、交流することに有用感を感じている。また、自分の考えを説明する際には、例を挙げて説明したり、非連続テキストを用いて説明したりする姿がしばしば見られるが、それが全体に広がってはいない。

3. 何ができるようになるか

探究力	・ 国力の充実に向けて取り組む日本についての情報を整理・分析し、国力の充実と国民の幸せ度をグラフに表すことで、この時代背景をつかみ自分の考えを説明する力
省察性	・ 国力の充実をめざす日本政府と国民の現状について分かった知識を基に今後の日本について予想をたてる力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手がかりに、わが国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解し国民の様子から国の在り方について考えをもつ。

② 教材の価値

本単元では、明治政府に代わり富国強兵を推し進める日本が、憲法の発布や日清・日露戦争での勝利、条約改正や化学や工業の発達によって国力を充実させ、国際的な地位を向上させたことを理解する単元である。しかし、その国力を充実させた背景には、政府の施策や人々の苦労がある。出来事を年表で追うことで事実は見える。しかし、その裏に隠れている政府がなぜ戦争に踏み出したのかという理由や、政府の施策の下で当時の人々がどのような願いをもって生活していたのについて政府の施策や当時の状況と関連付けることで、この時代をより深く理解するとともに、その後の日本が太平洋戦争へと突き進んでいく状況を身近に捉えることができる単元であると考えられる。

③学年間・教科間のつながり

中学進学を見据え、小学校段階での歴史学習ではどのような力を身に付けておくべきか。知識の習得や概念の形成も必要であるが、中学校においてもさらに詳しく知識や概念を習得することになるため、小学校段階では、いかに事象について想像を膨らませ、事象についてイメージをもつのかを重要視していきたい。そのイメージや考えたことがこの先の社会科学学習や実社会における基盤となり、自らの判断に活用できる力になると考える。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる
 つなげる
 まとめる
 広げる
 予想する
 見方を変える

③ 学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

<p>単元計画（全 10 時間） 本時 10/10</p> <p>問題発見 「なぜ、国力の充実をめざすのか」</p> <p>1 単元名をもとに課題を設定する。</p> <p>考察の過程</p> <p>2 憲法や自由民権運動から課題について検討する。</p> <p>3 国会開設から課題について検討する。</p> <p>4 不平等条約改正から課題について検討する。</p> <p>5 2つの戦争から課題について検討する。</p> <p>6 韓国併合から課題について検討する。</p> <p>7 工業から課題について検討する。</p> <p>8 人々の生活から課題について検討する。</p> <p>9 課題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>構想の過程</p> <p>10 国力の充実とは。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="text-align: center;">単元における授業づくりのしかけ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">探究力を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・単元名から内容を予想させることで、課題設定につなげ、主体的に学ぼうとする意欲を喚起する。【学習問題】 ・これまでの国力について発問することで、時代の様子や人々の立場など、様々な視点で再度国力の充実について考えさせる。 <p style="text-align: right;">【活用】</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">省察性を育む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・国力の充実と人々の様子をグラフに表すことにより、事象についての知識の再構築を促し理解を深める。【言語活動】 </td> </tr> </table>		単元における授業づくりのしかけ	探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・単元名から内容を予想させることで、課題設定につなげ、主体的に学ぼうとする意欲を喚起する。【学習問題】 ・これまでの国力について発問することで、時代の様子や人々の立場など、様々な視点で再度国力の充実について考えさせる。 <p style="text-align: right;">【活用】</p>	省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・国力の充実と人々の様子をグラフに表すことにより、事象についての知識の再構築を促し理解を深める。【言語活動】
	単元における授業づくりのしかけ						
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・単元名から内容を予想させることで、課題設定につなげ、主体的に学ぼうとする意欲を喚起する。【学習問題】 ・これまでの国力について発問することで、時代の様子や人々の立場など、様々な視点で再度国力の充実について考えさせる。 <p style="text-align: right;">【活用】</p>						
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・国力の充実と人々の様子をグラフに表すことにより、事象についての知識の再構築を促し理解を深める。【言語活動】 						

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手がかりに、わが国の国力が充実し、国際的地位が向上したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明治・大正時代の様子、人物の働きに注目して、わが国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を基盤に、その時代の人物になって国力についてグラフを使って説明しようとしている。

社会科学習指導本時案

授業者 平井 千恵

日時：令和元年11月3日（日）第1校時（9：10～9：55）

対象：第6学年C組 30人

場所：6年C組教室

本時の主張点	「国力の充実」に突き進んだ政府と国民の生活を比較し「国の在り方」について考えることで多面的に考えるという探究的な学びが実現するであろう。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

単元を通して、国力の充実をめざす日本と国際社会というテーマの意味を考えるために、各時間に学習した内容から国力の充実をめざす日本と国民の幸福度についてグラフに表しながら考えを形成してきている。そのため、国力の充実について、子どもたちは学習した知識を使ってある程度理解し、自分なりの考えをもっている。また、単元の導入時に国力が充実することは、国民にとってどうなのかということ問い、子どもたちは「国民は幸せになるであろう」という予想を立てている。本時では、国力の充実をめざしたことが国民の幸せにつながっているのかを考えさせることで、国の発展のためという日本政府の思いとその下で生活している国民の思いには大きな隔たりがあることに気付かせたい。そして、その隔たりを埋めるための手立てを構想することにより、この時代について理解し歴史を学ぶ意味についての考えをもてるような機会にしたい。

本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びとは、「国力の充実」に対し「日本政府」と「国民」という2つの視点で比較することで、この時代の政府の動きは国民の幸せには必ずしも直結するものではないということをつかえ、「国の在り方」について自分なりの考えを形成することである。そのためには、「国力の充実」と「国民の幸福度」いう見方で学習してきた道筋を振り返り、その学習した内容の裏には国民の生活があり、その下で日々生活していた人の思いについて考えなければならない。この時、これまでの学習を再度見直し、国民という視点から知識を再構成する必要がある。この活動が省察性を働かせる機会となり、知識を再構成し、国の在り方を考えることで省察性を働かせながら探究させていきたい。

3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

本時において子どもが活用する学びは、憲法の発布や国会開設であったり、2つの戦争における日メリット・デメリットであったりと単元の学習を通して身に付けた知識である。それを基に国民の幸せについて考えることで一見国民のためのような事象であっても、生活している国民にとって負担の大きいものであるということに気付く。また、「政府の政策は国民のためになっていなかったのか」と投げかけることで、国力について再度思い出し、「よりよい国の在り方」についての考えの形成につながるとともに、戦争に突き進む日本政府についての考えを深めるための視点になるとも考えている。

4. 本時の目標

国力の充実に向けて動いてきた政府と生活していた人々の心情を比較し、国民の生活を向上させる手立てを考えることにより、よりよい国の在り方について自分の考えをもつことができる。【思考力・判断力・表現力】

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 子どもの疑問「そもそもなぜ国力をつけようとしたのか分からない」を取り上げ、それについて考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国に追いつくため。 ・不平等条約を改正するため。 ・近代化させて生活をよくするため。 <p>2. 2つのグラフの差を埋めるためにはどんな方法があるのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふりかえりであった疑問を取り上げ政府の立場を確認させる。 ・グラフを示しこの時代で生きていきたいのか問い、「この時代に生きるならば、どうやって生活をよくするのか立場を決めて考えよう。」と発問することで、この時代の人の立場に立って考えさせる。 ・国力を落とさずに生活を向上させる方法を考えるように声掛けする。 ・すぐに解決できるものは少ないということに気付かせ、大きな問題にはある程度の時間が必要だということを理解させる。
<p>「よりよい国の在り方」について考えよう</p> <p>グループまたは個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の地位向上をめざすために、女の人が働ける会社を作って女の人の活躍する場を作る。 ・公害を減らすために排水をきれいにする研究をするために外国へ留学する。 ・女性も選挙権をもてるように、国会議員になるために選挙にでて選挙運動をする。 <p>3. 政府の立場に立って、当時の優先順位がどうなっていたのか考える。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい日本にするには、政府も国民も頑張ることが大事だと思った。 ・選挙でやりたいことを伝えたり、投票したりすると日本は変わると思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国力を落とさずに生活を向上させる方法を考えるように声掛けする。 ・すぐに解決できるものは少ないということに気付かせ、大きな問題にはある程度の時間が必要だということを理解させる。 ・政府は国民の生活が苦しくなることを望んでいたのか。本当の意味で「国力を充実させる」とはどのようなことか問う。 <p>思・判・表 2つのグラフを比較・検討しながら、よりよい国の在り方について自分の考えをもつことができる。【ノート】</p>